

社団日本心理学会研究集会等助成金成果報告書（平成 22 年度）

|                         |  |           |                    |
|-------------------------|--|-----------|--------------------|
| <p>代表者氏名<br/>(ふりがな)</p> | <p>星野 悦子<br/>(ほしのえつこ)</p>  | <p>所属</p> | <p>上野学園大学 音楽学部</p> |
| <p>研究集会等名称</p>          | <p>音楽心理学研究会</p>  |           |                    |
| <p>成果概要</p>             | <p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 15名（うち認定心理士 1名）<br/>非会員 6名（うち認定心理士 名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>1、本研究会では例会を1カ月～2カ月に1度の割合で行った。本年度は以下の通り、実施した。例会の内容はおもに以下の英語原典3冊を講読して内容を議論することである：</p> <p>1) ”The Psychology of Music. 2<sup>nd</sup> edition”,<br/>2) “Cognitive Neuroscience of Music”,<br/>3) ”Musical communication”.</p> <p>① 2010年 4月 24日 第30回例会<br/>② 2010年 6月 12日 第31回例会<br/>③ 2010年 7月 17日 第32回例会<br/>④ 2010年 9月 26日 第33回例会<br/>⑤ 2010年 10月 30日 第34回例会<br/>⑥ 2010年 12月 12日 第35回例会<br/>⑦ 2011年 2月 5日 第36回例会</p> <p>2、集会等の目的・成果等</p> <p>日本心理学会第74回大会（於：大阪大学）においてワークショップを研究集会と位置付けて、平成22年（2010年）9月22日に実施した。内容は以下のとおりである。<br/>テーマ：「音楽心理学研究の現在と未来(2)～音楽とコミュニケーション」<br/>内容：趣旨説明1件（企画代表者：星野）、話題提供4件、指定討論者2名（大串健吾・大坊郁夫）、司会者2名（佐藤、生駒）、フロアの出席者55名。<br/>話題提供のタイトルと提供者名を記載する。「アンサンブル演奏における視線行動」（河瀬諭）、「即興演奏における感情のコミュニケーション」（生駒忍）、「歌の聴取で伝わるもの」（星野悦子）、「語り・語りい・物語—臨床における即興演奏の諸相—」（稲田雅美）。これらの予稿集を兼ねた「音楽心理学研究会論文集第3巻」をフロア出席者全員へ配布した。</p> <p>音楽経験の中には様々な形でコミュニケーションが含まれている。そこではどのような音楽情報内容が、だれにどのようにどの程度伝達されるのか。このテーマに基づいて、研究会員らが全体として基礎領域から臨床領域までを含んだ研究成果を報告した。学会員の広い関心と呼び込み多くの聴衆の参加があった。</p> <p>3、将来計画 次年度には、日本心理学会第75回大会でのワークショップとして研究集会を企画している。</p> |           |                    |